LGBTQ+ 卒業生たちのライフストーリー集 vol. 3
「アクティビスト・アライのライフストーリー」
「発刊にあたって」

人権教育研究室室長・人間福祉学部教授　武田　丈

関西学院大学の『LGBTQ+ 卒業生たちのライフストーリー集』は、2020 年に就活に重きをおいた vol.1 を、そして 2024 年にはカミングアウトをテーマとした vol.2 を発行してきました。それは、LGBTQ+ の卒業生たちがキャンパス内外でどんな問題に直面し、対応してきたかということを赤裸々に語ってもらうことで、LGBTQ+ の在学生にサバイバルのノウハウを伝えること、そしてキャンパス内の課題を LGBTQ+ でないシスジェンダー・ヘテロセクシュアルの学生や教職員に知ってもらうことが目的でした。

これらの目的は、2026 年で 14 回目を迎えた関学レインボーウィーク（KGRW）とも共通しています。KGRW の今年のテーマは「Still Here Still Queer：つねに、すでに、ここにいる」でした。近年は日本社会でも「LGBT」という言葉の認知度も高くなってきましたし、LGBTQ+ の人たちが多少は可視化されるようになってきました。ただ、これは LGBTQ+ の人たちが急に増えたからではなく、今まで声を上げられなかった状況から少しずつ、本当に少しずつですが声を上げられるようになってきたからです。つまり、LGBTQ+ の人たちは、日本社会の中に「つねに、すでに、ここに」ずっといたのです。ただ、少しずつ認知が高まり、声を上げられるようになったとはいえ、残念ながらまだまだ日本社会で LGBTQ+ の人たちの人権が尊重されているとはいえません。だからこそ、KGRW を開催し続けているのです。

関西学院は伝統的に人権教育に力を入れており、インクルーシブ・コミュニティ宣言にみられるように多様性が尊重されるキャンパスの構築を目指

しています。KGRW も多くの学生、教職員の方に賛同やご協力が得られているからこそ、14 回も開催してこられました。本当に、有難いことです。きっとこのライフストーリー集をお読みになっている皆さんも、KGRW の主旨には賛同してくださっているのではないでしょうか。近年の日本における調査結果でも、同性婚賛成や LGBTQ+ の人たちの人権を尊重したいと思う人の割合は、非常に高い値となっています。関学の構成員の多くの方たちも、「自分は LGBTQ+ の人たちに対して偏見がない、差別をしない」と思っている人が大半だと思います。でも、心の中でそう思っているだけでは、周りの人には伝わらないし、キャンパスや社会は変わりません。それどころか、何も態度や行動で示さないことは、LGBTQ+ の人たちの人権が尊重されていない現状の社会構造の維持に無意識に加担してしまっていることになるのです。だからこそ、『LGBTQ+ 卒業生たちのライフストーリー集 vol.3』では、多様な SOGIE 尊重のために活動している人たち（アクティビスト）に焦点をあてて、どうしてその人たちが理解や想いを超えて、実際にアクションをとるようになったかを語ってもらっています。本書が、理解や想いからもう一歩を踏み出して、読者の皆様の小さなアクションを起こす後押しになることを願っています。